

大間原子力発電所 審査会合における指摘事項について(地震・津波関係)

旧
No.

No.	分野	項目	指摘場所	指摘日	コメント内容	回答日
S4-5	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	F-14断層について、敷地における地震動評価に大きな影響を与える支配的なパラメータについて分析した上で、基本ケース及び不確かさケースを再整理し説明すること。	今後ご説明予定
S4-6	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	大間と近隣サイトとで地域性が異なるとは思えず、微小地震の発生状況を踏まえると、地震発生層下限深さは15kmが適切と考えている。また、F-14断層は孤立した短い活断層として規模を固定して評価するため、地震発生層下限を深く設定することが必ずしも保守的になるとは限らない。このことを踏まえ、F-14断層の地震発生層の厚さをどうするのか、隆起再現断層の地震発生層の厚さをどうするのか、検討すること。	今後ご説明予定
S4-7	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	奥尻三連動は長大な活断層であり、強震動予測レシピに示されていない方法で震源モデルを設定することの科学的根拠の妥当性を確認する必要がある。地震モーメントの設定に用いている国交省ほか(2014)は津波評価のため作成されたスケールリング則であり地震動評価に適用できるか疑問であり、また微視的パラメータとの整合が取れていない。国交省ほか(2014)を用いるのであれば、長大な活断層に適用できるスケールリング則に関する知見を整理のうえ、用いる妥当性を説明すること。	今後ご説明予定
S4-8	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	奥尻三連動の不確かさに関して、アスペリティ位置と敷地における地震動評価との影響分析を行うこと。また、断層上端に破壊開始点を設定している理由を記載すると共に、破壊開始点を複数設定したケースも検討すること。更に、長大断層であることを踏まえ、破壊伝播速度について宮腰ほか(2003)の知見を踏まえた検討も行うこと。	今後ご説明予定
S4-9	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	隆起再現断層の隆起域再現性評価の地殻変動計算に、Okada(1992)の方法を用いているが、Mansinha and Smylieの知見を用いた事例等もある。手法の違いによる地殻変動量の差異の有無、及び地震に伴う地殻変動を説明するために行われた数値シミュレーションの事例を説明すること。	今後ご説明予定
S4-10	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	隆起再現断層の震源モデルの設定について、地質的に設定した地表トレース3条、補完的に設定した地表トレース2条に対して、例えば断層位置、傾斜角、アスペリティ位置といったパラメータが隆起再現性に及ぼす影響度や傾向を分析して図示するなど、隆起再現性があるとする領域について、代表性・網羅性の観点から妥当性を説明すること。	今後ご説明予定
S4-11	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	隆起再現断層の隆起域再現性の評価基準に関して、「規模・配置の再現性」の評価基準1と、「隆起速度分布の再現性」の評価基準2に対する重み付けの考え方、評価基準の閾値として3割の齟齬まで許容している考え方を説明すること。	今後ご説明予定
S4-12	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	今回提示された隆起再現断層の地震動評価結果に関して、西部断層のアスペリティと東部断層のアスペリティの敷地における地震動評価に対する寄与率を提示すること。	今後ご説明予定
S4-13	地震	内陸地殻内地震	第1013回会合	2021年11月5日	標準応答スペクトルに基づく地震動について、内陸地殻内地震とともに審議するので説明すること。	今後ご説明予定

コメントNo.の凡例 (1列目)_H: ヒアリングでのコメント, S: 審査会合及び現地調査でのコメント

(2列目)_R: 論点, 1: 敷地周辺地質, 2: 敷地地質, 3: 地下構造, 4: 地震, 5: 津波, 6: 火山, 7: 地盤・斜面

注1) 項目のうち「第四系中の変状」(第700回審査会合までの記載)については「後期更新世に生じた変状」に改称。